

芝山町の四偉人 — 芝山町が生んだ4人の歴史上の人物 —

実業家にして教育家、最初の県会議員

池田栄亮



天 保一四年（一八四三）九月一五日、上総国武射郡飯櫃村（現飯櫃）生まれ。池田家の先祖は、戦国時代は飯櫃城主山室氏の家臣だったと伝えられ、江戸時代には飯櫃村で代々名主を務め、名字帯刀も許されていた家柄でした。七歳から漢学や英語を学び、青春時代は東京や横浜に遊学し海外事情の研究を行っていました。

明治六年（一八七三）に父利左衛門が私財をもって飯櫃に池田小学校を開校しましたが病に臥したので、栄亮は家を継ぐために翌々年故郷へ戻り、その後学区取締、第九大区長、医務取締という役を県から任命されました。

明治一二年に最初の千葉県会議員となり、一三年に副議長、翌年には

議長に就任し、歴代最長の八年八か月の長きにわたって務め、この間に山縣有朋や大隈重信ら中央政界の人びとも親交を結びました。

実業家としての栄亮は、千葉県貯蓄銀行頭取、蠣灰商会頭取、協同魚鳥会社、東京製氷会社、日本煉瓦会社、利根運河会社、東京家畜市場会社、日本水産会社、総武鉄道会社、大日本水産会などの経営や発起設立に関わっています。

明治二年には池田小学校の生徒が百人余りに増えたことから、栄亮は校舎を一〇〇〇円で新築寄付しました。

晩年は郷里の飯櫃で過ごし、大正九年（一九二〇）六月一日、七八歳で逝去しました。



国会開設に多大な影響を与えた若き論客 桜井静



安 政四年（一八五七）一〇月一〇日下総国香取郡牛尾村（現多古町）に吉川家の次男として生まれ、池田栄亮から英語、漢学、数学などの教えを受けました。特に

数学の才能があり一三歳で宮城県租税課に勤務し、木更津県、千葉県の成立後も引き続き勤めました。この頃夷隅地方で私塾を開いていた嶺田楓江から自由民権の思想を学ぶと、一八歳で上京し「民制十三ヶ条の議」「民権議員設置の議」を元老院に建白、「士族授産の方法」を正院に建議するなどの積極的な活動を一人で行いました。明治九年（一八七六）二十歳の時に武射郡小池村（現小池）で二川小学校に敷地を提供していた人徳者、桜井吉造の婿養子となりました。



明治一二年六月、「国会開設懇請協議案」を全国の府県会議長や有志にあてて送りました。この協議案には岡山、岩手など当時の三府三六県のうち約半数から賛同の回答が寄せられました。一二月には憲法草案である「大日本国憲法草案」五一か条を発表、明治一四年には総房共立新聞を創刊し千葉県内の民権運動の結集に努めました。

明治二年七月一日、第一回衆議院議員選挙に出馬しましたが落選、翌年北海道へ渡り桜井農場を開設し、7年を過ごした後、中央政界へ復帰。明治五年の第七回総選挙で初当選し、国会議員となりました。

二年の国会議員生活を経て、日露戦争中に満州へ渡り牧草地やホテルの経営などの事業を手がけていますが、明治三八年八月二五日、四九歳で自らの命を絶ちました。

明治・大正期の日本を官僚として支えた秀才

木内重四郎



慶 応元年（一八六五）一二月一〇日、上総国武射郡白柵村（現白柵）の生まれ。中世の千葉氏一族の重臣であり米野井城の主、木内氏が遠い祖先。米野井城が里見氏に攻め落とされた際に飯櫃城の山室氏に庇護され、飯櫃城の落城によって飯櫃で帰農し、そこから白柵へ分家した一族の家系です。諱は孝胤。

幼いころから頭が良く、一三歳で下等小学校を卒業すると菱田小学校へ通いながら大里小学校の教師を務めていました。明治一四年（一八八二）七月には県立千葉中学校を首席で卒業。明治一七年に二十歳で東京大学文学部政治学科に入学しました。大学も首席で卒業した後、国会開設準備のため欧米視察のメンバーに指名され法制局参事官補に任

じられました。帰国後は貴族院書記官として伊藤博文のもとで議会の規則の草案づくりを行いました。明治三年には農商務省に移り三四歳で商工局長となりました。

日米開戦を決めた御前会議に出席していた背広を着た軍人 鈴木貞一



明 治二年（一八八八）一二月一六日千葉県武射郡山中村（現山中）の生まれ。上京し京北中学を卒業すると、陸軍士官学校に合格し陸士の二期生となりました。

大正三年（一九一四）には陸軍大学校へ入学し、中国語を学び六年に卒業しています。その後は中国と日本を行き来しキャリアを重ね中国通として知られました。また、日本銀行や大蔵省などへも研究生として派遣され、東京帝国大学で経済理論を学ぶなど経済的な知識を習得しました。昭和一二年（一九三七）に勃発した日中戦争を機に企画院がつくられ、昭和一六年四月、第二次近衛内閣において国務大臣兼企画院総裁に就任しました。第三次近衛内閣、東条内閣でも留任しました。一八年に企画



院が廃止されたので退閣し、貴族院議員に任じられ、産業報国会会長も務めました。このように軍人でありながら政治活動が多かったため「背広を着た軍人」と呼ばれていました。終戦後は収監されましたが、三〇年九月に仮釈放され、三三年四月に赦免となり、四八年、八四歳で郷里の芝山町山中へ帰り、平成元年七月一五日一〇〇歳のとき高根病院で逝去しました。生前、町に寄付したお金で購入されたグラントピアノは、今も芝山中学校で奏でられています。

芝山町が空港問題で揺れているとき、郷里の親族に送った手紙には「空港問題に関しては附和雷同をやめ国のため、町民のため、且つは自分のため、自の心に聞いて左右を決すべきである。それが民主主義である。自ら決すべく雷同は断じてやめよ」と記していて、郷里の様子を心配していました。



明治三八年、伊藤博文の統監府初代長官就任に伴い重四郎も朝鮮へ渡り、韓国併合後は農商工部長官などを務め五年半を過ごしました。帰国すると国家の功労者として貴族院議員に推薦されます。大正五年（一九一六）には京都府知事に就任し、周辺町村の合併を推進し京都市域の拡大や、教育改革などの実績を残しました。

大正一四年一月九日に六一歳で逝去しました。最期を迎えた国府台の別邸は、白柵と東京を行き来する間に気に入って徐々に土地を購入していった場所です。現在は木内ギヤラリーとして保存されています。